

昨年の秋久し振りに国立劇場の歌舞伎で『国性爺合戦』を観た。和藤内は团十郎であった。この芝居は文楽でも歌舞伎でも見ていたが、大分昔なので虎と闘うところとか、紅流しくらいしか印象に残っていないが、今回色々なことで関心が大きかったので、大変面白かった。

この主人公である国性爺即ち鄭成功、日本名和藤内は、父が明國の重臣鄭芝竜で暗愚な皇帝と意見が合わず官を辞して貿易商となつて日本の平戸に渡り、日本人の娘との間に生まれた者、明國が異民族の韓靼國に攻められ、國が危うくなっていることを知り、両親と共に祖国に帰り、明國を再興するという物語で

## 近松の「国性爺」を観て

義太夫協会会長 田辺秀雄

ある。

これは大近松の代表作の一つで初演(正徳五年一一七一五竹本座)以来人気高くしかも最近まで日本人の間に喜ばれていた淨瑠璃である。私なども子供の頃、祖母などから聞いていた尻取歌に「牡丹に唐獅子、竹に虎。虎を踏んまえ和唐内……」などがあり、また各地に残る郷土芸能にもその他の「貝拾い」など和藤内の芝居の影響は大きい。

鄭成功は実在の人で明末に滿族即ち清軍に抵抗活躍し、また台湾に渡って植民地にしていたオランダ軍を追いつめた。結局彼は若くして世を去り、明國も滅びるのであるが、中の漢民族は彼を稀代の英雄として称えてい



義太夫協会会報

第50号

平成3年3月21日

社団法人 義太夫協会発行

〒104 東京都中央区銀座

6-18-2 新橋演舞場B2

TEL (3541) 5471

る。近松の淨瑠璃は勿論フィクション(小説)で事実とは異なる点も多いが、彼を英雄としている所は同じ。近松がこれを初演したのは鄭成功が死んでから約五十年後のことだから鎮国の最中によくこんなに早く出来たものであると思う。更にこの人気は続いて彼に「国性爺後日合戦」を書かせ、また「今国性爺」などというものも現れた。大変スケールの大きい企画であると共に、彼の最も充実した時代の傑作である。

私は昭和六三年に本協会の景山監事と中国福建省へ戯劇を尋ねる旅に行き、泉州、廈門(アモイ)を訪れたが、泉州は鄭芝竜の出身地、廈門のコロンス島は成功的築った島で、今では鄭成功記念館がある。またその前年に家族と台灣に旅行したが、台南は成功がオランダ軍を打ち破り落城せしめたところ、その遺跡とやはり記念館がある。それらを見学して彼の人気が中国人に並み並みならぬものであることを知った。成功の敵であった清国は今世紀の初めまで支配していたので、中国では永い間余り表面には出て来ず、劇にも取り上げられていないようであるが、日本で昔からこのような規模の大きな芝居となり、しかも内容は日中協力して漢民族を異民族の手から救うというものの、その上それが名作として永い間日本人の間に親しまれてきたということは、日中友好の紳として大いに取り上げられて良いものであると思う。文楽や歌舞伎を中国に紹介するときには絶好の演目と考えるのだが如何であろうか。



故豊澤仙廣師

## 豊澤仙廣女史に贈ることば

義太夫協会名誉会長 吉 川 英 史

豊澤仙廣女史は、私が義太夫協会の会長をつとめていた時代に、長い間副会長をつとめて下さった方でありますので、個人的な関係の上からは、「仙廣女史」という硬い言葉よりも、「仙廣さん」という軟らかい言葉で呼ばせて頂くほうが、しつくり致します。

◆ 女傑・豊澤仙廣  
しかし、客観的に仙廣さんのことを考えますと、「女傑」という言葉が当てはまる数少ない女性であったように思います。念のため『日本国語大辞典』を見ますと、「仕事ぶりや気性などがふつう以上に活潑ですぐれてる婦人」とあります。

この辺から親しみを込めて仙廣さんと呼ばせてもらいたいのですが、仙廣さんの「女傑」ぶりを実証する逸話の一、二、三を書き留めておくことに致します。

仙廣さんは常々男女平等を唱えられましたが、文楽の本興行に女流義太夫を加えて欲しいとの提案も、その一つの現れであります。その提案には、芸術院々長の高橋誠一郎博士や義太夫の通人であり、脚本家でもあった安藤鶴夫氏らの賛成もありましたが、当時の文楽の有力者の反対で、実現しなかったということです。(この問題についての私見は他日述べることに致します)。

次に、芸能関係の人間国宝の人たちが、仙廣さんに感謝すべきことがあります。この事実を知っている人は多くありません。私はふとしたことから、この秘話を生き証人から

聞くことができました。  
ある時、大蔵省の主計局次長がある席で重要無形文化財の助成金(交付金)にふれて、芸能方面はその必要がないから、年金は要らないであろうとの話をしたそうです。その席には、文化庁の役人のほか、文楽の竹本春子大夫や野沢勝太郎らが同席していましたが、お役人は上司には反対できにくいものであり、芸人は一般に芸一筋で、弁舌は得意であります。その時たまたまこの次長の話を耳にした仙廣さんは、「女傑」ぶりを發揮して、芸能方面にも工芸と同様に費用が必要であることを説明し、次長を説得されたそうです。その後、仙廣さんの主張通りになったのですが、仙廣さんの説得が功を奏したに違ありません。

### ◆ 義太夫協会への功績

話を義太夫協会の関係に絞りましても、仙廣さんの功績は多大なものであります。

- (1) 每回の理事会その他協会の会合はもとより、女流義太夫のお稽古場として新小松のお座敷を無料で貸して下さいました。
- (2) 当時の協会の定例公演は、毎月二回本牧亭で行われましたが、「この公演に出演することこそ修業であり、稽古である」と、若手会員を叱咤激励し、なるべく多く出演するよう勧誘され、ご自分も毎年まで、耳目の故障を乗り越えて出演さ

れました。

## 第6回豊澤仙廣賞

(3) 若手会員の三味線志望者には、老齢を顧みず、奉仕的に稽古し、指導されました。

(4) 本牧亭の出演料は、協会の経済状態の許す範囲で、できるだけ増額するように提唱しておられました。「ギャラの多寡は、個人の問題であるばかりでなく、女義の社会的地位の問題である。」というのが、仙廣さんの主張でした。

(5) 社交や外交が苦手の会長に代って、その面で大いに義理を果たして下さったことに対しても、いつも感謝していました。例えば、文化庁やNHKへ盆暮れに挨拶回りをして下さいましたが、ある年文化庁で新聞沙汰にもなったある問題が出たのを機に、義太夫協会としての挨拶回りは止めてもらうことにしました。

(6) 協会の財政は、残念ながらいつも赤字でしたが、だからといって事業を縮小することなく、他の邦楽の協会がやらない「教室」や「教師のための講習会」や、毎月二回の定例公演を催すことができたのは、仙廣さんの義侠的赤字補填があったからこそあります。

(7) 協会の発展を願い、会員を激励する意味で制定された「豊澤仙廣賞」は、「情けはひとのためならず」で、仙廣さんの功績を末長く伝える「賞」でもあります。

このように考えてまいりますと、「物心両面の功労者」という言葉は、豊澤仙廣女史に贈ることとばとして最も適切なように思われます。

### —副賞は河野国声氏より—

「豊澤仙廣賞」は、豊澤仙廣師（もと義太夫協会副会長・義太夫節保存会会長）の功績を記念して、河野国声氏の提唱を受けて、昭和61年創設されました。平成2年度第6回受賞者は、鶴澤駒登久に決定。永年、女流義太夫公演に出演しつづけたのみならず、特に昨年一年間の国立芸術場女流義太夫演奏会で最も活躍した三味線奏者としての受賞です。

副賞は、豊澤仙廣師の最も良き理解者・豊澤仙廣賞の提唱者でもある河野国声常任相談役より毎年頂戴いたしております。

### 〔受賞者略歴〕 鶴澤駒登久（つるざわ こまとく）

大正2年	竹本吉花に手ほどきをうける。
10年	豊竹駒清（こまきよ）に入門、豊竹駒登久となる。
12年	浅草の東橋亭にて初舞台
	ひきづき、浅草の東橋亭・パ一館などで、弾き語りをつとめたが、関東大震災で寄席壊滅のため2年ほど舞台活動は休止。
(その後、同門に三味線弾きが少なかつたため、徐々に三味線に移行していく。この間、竹本小土佐の一座に加わり、北	（以後、第二次世界大会勃発まで、舞台活動、素人の稽古、竹本越駒一座・竹本素女一座で各地を巡業。戦争中は、休業）
49年	上野「本牧亭」にて鶴澤駒登久に改名披露
55年	社団法人義太夫協会理事
55年	重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者
55年	芸団協芸能功労賞
63年	勲五等瑞宝章
平成元年	社団法人義太夫協会参与
2年	義太夫節保存会理事
昭和3年	浅草東橋亭にて真打披露
昭和3年	海道・東北等を巡業

# 豊澤仙廣と義太夫節

常任相談役 河野国声

野国声

義太夫という芸術は、音声を以って空中にお芝居の場面を描き出す、魔可不思議、巧妙至極な表現法であります。一人の人間が、五人も七人の登場人物を彷彿とさせ、実際の芝居を見るより面白く、写実的に、或は誇張・作為的に、たっぷりと作り事をしながら実際に感動させるという表現術なのであります。そして、自分がまず感激し、何十人・何百人の聴衆を劇中の人とし、芸の中へ引き込んでしまうのです。だから、世の中で義太夫ほど面白い芸術はないとは私は思います。しかし、それほどに義太夫は難しく、少しの油断も出来ない真剣・真実の芸術であるのです。そこで、義太夫を志す人、縁ある方々のすべてに申し上げたいことは、くれぐれも義太夫の真価を過って、だらしのない語り天狗や聴き天狗にならぬよう、これは義太夫を汚し品貞の引き倒しとなるからであります。前置きが長くなりましたが、そこで思い出しが豊澤仙廣のことであります。仙廣の斯道に対する情熱の烈しさであります。この仙廣としたが、人間性・人物の偉さでは正に

男まさり、大変な度胸と知恵と人徳、実行の人でありました。

私は、仙廣が昭和十三年、満州のハルピンで料亭をしていた頃から、蔭になり日向になりましたが、のち三味線に転じて小住につき、更に名人・仙糸について修業して豊澤仙廣となつた人。終戦後、古靴から離れた四代清六を援けて、東京の師の晩年に蔭の応援者として有名。更に衰微しかけた東京の義太夫界を興隆し、義太夫協会を大きくし、義太夫を国の文化財として認めさせたり、多くの叙勲者を出したりしたその蔭の働きは、枚挙に遑ないほどで、仙廣の顔のきくことと、信念や押しの強さには、大抵の政治家も実業家も動かされるその気力には驚くべきものを感じさせられました。仙廣の五十年を熟知する私としては、驚嘆そのもの、事業も数々が成功して子供達もみな立派である点まで、大きく賛辞を贈りたく思います。

玄人も素人も天狗になつたら芸の止まりで

す。「初心を忘るな」という言葉がありますが、あれは初めの心というより素心という、素直な心を一生涯忘れるな、怠るなどといふことで、素直でない人は決して上達いたしません。殊に義太夫は音曲の司といわれていますが、義太夫を習い、語り弾きながら、素心を忘れないようにしなければ、それは天狗です。その点では仙廣は偉かったです。日曜日ごとに、仙廣に弾いて貰って語っていた頃、その後、脳外科の手術を無事終えてからの再開の頃を思い出しても、暇があると録音を聞き熟心に稽古しておきました。そして、稽古の後テープを聞いて反省、また三味線をとりあげる……その熱心さ、偉いものでした。

東京の女義界を盛り上げた仙廣が、すっぱりと副会長を辞任した未練の無い引き上げぶりには、兄貴分の私でもその思い切りのよさに感心、やはり仙廣は大きかったな?と思いで出しております。義太夫界の皆さん、どうか仙廣のあの情熱を引き継いでやって下さいませんか、お願ひいたします。

最後に、今年の仙廣賞に決まつた駒登久さん、これが素心というものでしようか、あなたの健闘ぶりそして八十過ぎてからのきらめきは、私のところにも伝わってきています。女義のために、本当に有難うございます。私からも御礼を申し上げてこの稿を終りといたします。

## 追悼 二人分の人生を生きた女傑

【平成二年一月十九日付産経新聞より転載】

十丁の三味の音が寒空の下響き渡った。女流義太夫界の発展に九十年の生涯を捧げた豊澤仙廣（本名、今井コシズ）さんの葬儀が十二日、東京・芝公園の増上寺慈雲閣でしめやかに行われ、豊澤さんは弟子らが弾く義太夫三味線「野崎村の送り」で参列者に別れを告げた。

「一に義太夫、二に義太夫、三、四がなくて五に義太夫の人生でした」と協会事務局の水野悠子さん。葬儀、通夜に訪れた関係者の間で、ひとしきり話題になつた奇しき因縁が二つあった。その一つは義太夫協会が戦後三十九年間常打ち小屋としてきた上野の本牧亭のこと。豊澤さんが亡くなつたのが八日、本牧亭が客の不入りなどのため閉めたのは二日後だった。

もう一つは、やはり十日朝亡くなつた春日野清隆・日本相撲協会前理事長のこと。昭和五十七年、勲四等瑞宝章を受け園遊会に招かれた。昭和天皇が春日野さんに話しかけ、脇にちょこんと立つていた豊澤さん。この写真が全国に配信された。関係者には昭和の終わりを感じさせた「ヨマ」だった。

その生涯は「女傑」という呼び方がぴったり来る。広島県三次市に生まれ、大阪に出て修業を始める。昭和三十八年、義太夫協会副会長。耳が遠くなつたと八十三歳ですっかり引退。

かつて築地にあつた料亭、旅館「新小松」のおかみでもあつた。戦前、中国のハルビン、

そして日本軍のシンガポール進攻とともに料亭「近松」を開いたほど海外雄飛ぶり。このとき培つた人脈が後々も生きて来る。「義太夫の豊澤仙廣と今井コシズ、まさに二人分の人生を生きたのでは」と新小松の前支配人、東吉三さん。

明治から大正にかけて女流義太夫は黄金時代を築いた。しかし、昭和に入り人気は落ち目となり、戦後は風前の灯の状態だった。

再興に力を注いだ豊澤さん、新小松の利益で協会の財政ほとんどをバックアップ。「文楽は国で保護している。私が死んでも助成金がもらえるよう」と社団法人化を急いだ。努力が実り、五十五年に結成された「義太夫節保存会」が、重要無形文化財に総合指定された。

若手には厳しかったらしい。協会には豊澤仙廣賞が設けられている。今年度選ばれた、樂屋の世話をする箱屋さんの小林敏子さんは、「帶の締め方が悪いと、教えてあげなさいなんて言われたもんです」と懐かしそうに話す。未熟な芸だとお客様に失礼と、舞台の幕を勝手に下ろしてしまふことも。社団法人化後の四十六年に再開された義太夫教室からは何人のプロが育っている。

「これから新しい時代が始まる」（田辺秀雄協会長）。女流義太夫は今年から国立演芸場に舞台を移し、二十日、二十一日公演が行わる。

豊澤 仙廣師一略歴

明治32年10月26日 広島県三次市に生る。

45年 竹本長廣に入門、竹本長久となる。

大阪千日前「播重」にて修業す。

豊澤小住に師事。

大阪因協会入会。

9年 豊澤仙糸に入門、豊澤仙廣となる。

仙糸歿後、四世鶴澤清六に師事。

一日の休みなく修業す。

38年 大阪文化祭賞

43年 人形淨瑠璃因協会賞

43・49年 社団法人義太夫協会副会長

45年 重要無形文化財「義太夫節保存会」会長

55年 昭和46年 藍綬褒章、56年 紺綬褒章を初め数多くの表彰がある。

56年 平成2年1月8日 心不全のため逝去  
57年 熨四等瑞宝章  
58年 大阪市民表彰  
63年 社団法人義太夫協会名誉会員  
63年 三次市特別功労表彰（第一号）  
享年90才

その他の、観光事業での功勞に対しても、昭和46年藍綬褒章、56年 紺綬褒章を初め数多くの表彰がある。

（文化部 江原和雄）

(1991.3.21)

## 曲弾きの名手

## 福 龍 さ ん の お 嘶

相 談 役 豊 澤 猿 三 郎

大正から昭和へかけて、面白い三味線を弾く福竜さんと言う人が居ました。音色は実に美しく、純金の釣鐘を打つ様な大きい艶のある音色でした。手の廻る事は、新幹線にプロペラを付けて走るようでした。前に書きました二三竜さんとよい勝負ですが、福竜さんは弾き過ぎる事、悪くいえば無茶に近いので困ります。本人も「あたしの三味線は出鱈目だから、よい太夫さんは弾かせてくれないよ。」と申しています。たとえば、日吉の「幾千代祝う竹長の心、ヲ、ヲ、ヲ、ヲ、ヲ、ヲ、」の様な時、思わず大きな声で「うまいッ。」と叫んでしまうのです。次の説教といふ合の手も、一般は七、八秒でしょうが福竜さんは三十秒ぐらい弾きます。道具返しなどは二分位かかるでしょう。心ある人が注意しても、「これはあたしの病いですから堪忍て下さい。」と謝る程人の善さです。

この手の廻る音のよい福竜さんに、他に相似の出来ないわざがあります。それは、櫓太鼓の曲弾き（編集部注・曲弾きの曲は曲芸の曲、曲芸のような弾き方の意味）です。この曲弾きが、福竜さんの呼び物なのです。ある

夏、牛込の矢来亭での出来事です。始まる前に本人が口上をいります。「トザイトーザイ、これよりあたくし十八番の曲弾きをお聴きに入れます。何卒拍手喝采をお願いします。」

始めようとしたときに折悪く、バッと停電となりました。福竜さんは、「お客様、生憎の停電だけどうなりますよ。暗くてもあた

しの三味線聴いてりや、二十四燭のタンクス

テン（新発明の電球）点けた程明るくなりま

すよ。じゃあ始めます。」「ハッ、チ、リン

チ、リン」鮮やかなものです。クライマック

スになると、肩衣を脱ぎ機を持って、チヨン

チヨンチヨンチヨンと三味線の棹をつたわつ

て、天柱（糸巻の有る所）へ横に置きまして、

一際高い声で「ハッ」と掛け声をかけるとア

ーラ不思議、撥は音もなく天井へ上がりまし

たが、天井から一尺程下で止まって、左右へ

フラフラゆれて居ます。まるで松旭斎天勝の

空中に眠る美女のようです。福竜さんは手品

（奇術）も出来るのかと感心しました。所が、

福竜が大きな声で「父ちゃん、撥が止まっちゃったよ。」すわ一大事と、父ちゃんが高

せん。「小福、電気をつけろよ。」小福が、  
「父ちゃんが、始まる前にいつものように消したんだもの、あたいにはわからないよ。」

座は明るく成りました。曲弾きの前の停電もやっと事情がわかりました。が、父ちゃんの姿がいけません。暑いので涼んで居たのでしょ、裸で漏れ手拭を肩に掛け、越中禪一ツで明るい高座です。客席から、「父ちゃん、越中禪上げて下さい。」福竜が立って、紐をめ直します。明るく成ってわかったのですが、撥を麻糸で結んで黒く染め、天井へ吊るし、楽屋から父ちゃんが引いてたのです。糸が天井板と桟の間に挟まり抜けません。二人で引っぱってやっと切れましたが、天井板が一枚そっくり取れ、数十年來のゴミと、ス、と、鼠の糞をかぶって、まるでチンパンジーの仮装行列の様です。福竜さんはえらいです。

其のまゝの姿で三味線をまえてお客様に、「随分お待たせ仕ました。途中からでは息が乗らないから、初めからやります。今夜のお客さんはお仕合わせです。一枚の木戸札で、

あたしの曲弾きが二度聽かれるんだもの。じやあ始めるよ。」「チ、ンチンチリガニチリ

ガニ」何事も忘れて夢中で演じます。感じてかお客様お一人が、手の切れるような一円札を高座へ置きました。つゞいて二十銭、三十

銭、中に五十銭など大きな銀貨を贈りまして、

夏の事で開け放しです。一円札がサッと飛ん

で高座から落ちました。前に居たご婦人が、

舞台へ乗せて銀貨を重石に仕ました。福竜さ



んは弾き乍ら大きな声で、「サンキュウペルモット。」とお礼を申しました。終演後はお客様の去る迄、切の人は高座で、「有難うございました。また明晩もお早々とお運びの程を。」とございさつを致します。一人の老婦人が三十銭を置き、「此の三軒先にお風呂屋さんが有りますから、洗ってお帰りなさいまし。」高座横から父ちゃんが顔を出し、「有難うございます。きれいに洗って、髪をゆって帰ります。」頭の禿げた父ちゃんが髪を結う、変だなアと思いましたが、そうそう思い出しました。福竜さんの髪は、自宅でも楽屋で父ちゃんがびんづけ（今のチック）を付けて結うのです。「早く帰らないとアカデン（終電車）に乗り遅れますよ。」私は家へ帰って、英和辞典を出して調べましたが、「サンキュウペルモット」は見当たりません。夜店で買った安物の古本故、消えちゃったのでしょうか。「サンキュウペルモット」の言葉をご存知の方はお教え下さい。福竜さんの音色と腕と度胸を見習い度いと思います。私のこの拙い嘶をいつもご催促を頂きます。私が「サンキュウペルモット」で御座います。ハイ御退屈で。

## 猿三郎師に感謝

掲載タイトル一覧

初春の七福神のお話  
結相撲脇二代鑑

モット。」とお礼を申しました。終演後はお客様の去る迄、切の人は高座で、「有難うございました。また明晩もお早々とお運びの程を。」とございさつを致します。一人の老婦人が三十銭を置き、「此の三軒先にお風呂屋さんが有りますから、洗ってお帰りなさいまし。」高座横から父ちゃんが顔を出し、「有難うございます。きれいに洗って、髪をゆって帰ります。」頭の禿げた父ちゃんが髪を結う、変だなアと思いましたが、そうそう思い出しました。福竜さんの髪は、自宅でも楽屋で父ちゃんがびんづけ（今のチック）を付けて結うのです。「早く帰らないとアカデン（終電車）に乗り遅れますよ。」私は家へ帰って、英和辞典を出して調べましたが、「サンキュウペルモット」は見当たりません。夜店で買った安物の古本故、消えちゃったのでしょうか。「サンキュウペルモット」の言葉をご存知の方はお教え下さい。福竜さんの音色と腕と度胸を見習い度いと思います。私のこの拙い嘶をいつもご催促を頂きます。私が「サンキュウペルモット」で御座います。ハイ御退屈で。

仙廣師は、副会長を後進に任せ、舞台活動を引退してからも、病に倒れるまではどんなことがあっても、本牧亭（当時の女流義太夫定席）公演の日には必ず足を運ばれました。八月だけは、避暑のために見えませんでしたが、客席の後ろで舞台やお客様の様子を見たり、楽屋にまわって、よくできれば褒め、悪い点があれば、歯に衣着せずに忠告をする……仙廣師の頭の中は、何とかして女流義太夫をもりたてようという思いで一杯だったに違いありません。本牧亭に行かれなくなった時の無念さは、どんなどったでしようか。

しかし、それまで仙廣師が果たされたことは、国立演芸場に移った今（本牧亭の頃からも）、豊澤猿三郎師がすべて替って下さっています。91才という高齢にもかかわらず、毎月の公演を監修して下さることに、義太夫協会では心から感謝しています。紙面を借りて改めて御礼申し上げる次第です。

また、当会報に寄せて頂いた原稿が、第五十号で二十三本にもなりました。まとめて一冊の本にしたらというお声も数多く届いておりますので、これまでのタイトルだけでもここに記録しておきたいと思います。

顔を合わせれば「原稿々々」とうるさい編集部からの御礼と、多くの読者の方に代わって改めて「原稿々々」とお願ひする次第です。

14号	大正初期の新富座
15号	吉一（清一）の忍と昇菊・昇之助
16号	昇菊・昇之助の不行儀
17号	明治終り 小若太夫と政二郎の大いたずら
18号	素と玄のいろいろのお嘶
19号	鶴澤一二師の八重桐廓嘶の二丁鼓
20号	友情と徳義
21号	昔の巡業
22号	引き際
23号	懷かしい本牧亭さん
24号	新春のお笑い嘶
25号	大変おそまつな真打さん
26号	安永寿さんのお嘶
27号	竹本播磨太夫師と竹本小清師のお嘶
28号	七十年前の寄席の雰囲気（続）
29号	昔の寄席の内外嘶
30号	竹本播磨太夫師と竹本小清師のお嘶
31号	七十年前の寄席の雰囲気（続）
32号	祖先祭その他の事
33号	祖先祭余話
34号	大正初期の新富座
35号	吉一（清一）の忍と昇菊・昇之助
36号	昇菊・昇之助の不行儀
37号	明治終り 小若太夫と政二郎の大いたずら
38号	素と玄のいろいろのお嘶
39号	鶴澤一二師の八重桐廓嘶の二丁鼓
40号	友情と徳義
41号	昔の巡業
42号	引き際
43号	懷かしい本牧亭さん
44号	新春のお笑い嘶
45号	大変おそまつな真打さん
46号	安永寿さんのお嘶
47号	竹本播磨太夫師と竹本小清師のお嘶
48号	七十年前の寄席の雰囲気（続）
49号	昔の寄席の内外嘶
50号	竹本播磨太夫師と竹本小清師のお嘶

## 女流義太夫共和会あれこれ（四）

仙廣さんの一周忌に因んで――

今回は故仙廣さんの一周年忌に因み、共和会や協会の関わりについて述べてみたい。

共和会発足は昭和三十五年三月であるが、仙廣さんの初出演は翌三十六年六月の藤組公演からである。藤組は土佐廣さんの組であるが、相三味線の猿幸さんが、病氣のため代演となつたのである。初日「河庄」、二日「寺子屋」、三日「沼津」、四日「岡崎」を立派に勤められている。そしてその年の師走（忠臣蔵）公演にも初参加して、二日目の「七段目」を勤め、三十七年の十月には、梅組（越駒・越道・駒龍さん等）の越道さんで、初日「新口村」、二日「紙治」を勤めている。これは、越道さんの相三味線だった巴住さんの代りだつたが、以後、ずっと越道さんの相三味線となつた。

共和会発足時には仙廣さんは、まだ協会に入していなさい。というのは、戦後東京に居を構え、築地「新小松」の基盤造りに精力を注いでおられたからである。三味線は、赤坂の名人清六師に十数年師事し研鑽を積んでおられたが、昭和三十五年五月、惜しくも清六師が亡くなられた為、翌三十六年、一緒に稽古を受けていた、土佐廣さん・猿幸さんの推

事務局長 竹本綾太夫

薦で協会に加入され、六月の藤組で本牧初出演となつたのである。その後すぐに理事に当選、二年後の三十八年の役員改選時には、なんと副会長に推挙され、就任となつた。が、古い芸歴、堂々たる貫禄、女義再興の情熱、企画力と実行力等、適任といえるが、異例の抜擢で女義の将来を託した当時の協会役員の慧眼にも敬意を表したい。以後、仙廣さんの八面六臂の活躍は皆様御承知の通りである。

昭和四十三年、大阪の春華さんを呼び、四月桐組公演で、初日「先代萩」、二日「吉田屋」、三日「十種香」と賑やかに初お目見え、その四日目には、光之助改め光末襲名として、「壺坂」を弾いている。以後、越道さん、春華さんで毎月のように出演されていて、偉大な仙廣師の御冥福を祈るや切。

### 〔訂正〕

〔以下次号〕

\* 46号の「女流義太夫共和会あれこれ（二）」で「四十四年の三月の大雪で一日休みなので計四百五十五日……」とあるが、それは三月四日の大雪のことだが、代替日として三月九日に番組通り公演をしたのを失念しておりました。計は四百五十六日となります。

\* 前号で、御定連様のお名前で「中井喜一郎さん」は「中井悦三さん」の誤りでした。いずれも御訂正下さいますよう。（綾太夫）

された。

協会の活動

’91年3月まで ’90年12月より

- |       |                                 |        |                                      |
|-------|---------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1月9日  | 普及部会                            | 於文明堂   | 12月19日<br>平成2年度芸術文化振興基金助成<br>金交付内定通知 |
| 1月14日 | 義太夫節保存会文化財保存事業東<br>京都助成金交付申請書提出 |        |                                      |
| 1月18日 | 公演企画委員会                         | 於文明堂   |                                      |
| 1月20日 | 公演部会                            | 於國立演芸場 |                                      |
| 20日   | 正会員・役員新春挨拶交換会                   |        |                                      |
| 20日   | 女流義太夫演奏会                        | 於國立演芸場 |                                      |
| 20日   | 初春公演                            | 於國立演芸場 |                                      |
| 1月23日 | 平成2年度芸術文化振興基金助成<br>金交付申請書提出     |        |                                      |
| 2月5日  | 演舞場稻荷初午祭                        |        |                                      |
| 2月12日 | 平成2年度芸術文化振興基金助成<br>金交付決定通知      |        |                                      |
| 2月13日 | 平成3年度芸術文化振興基金助成<br>活動募集に関する説明会  |        |                                      |
|       | 於国立オリンピック記念青少<br>年総合センター601研修室  |        |                                      |
| 2月15日 | 公演部・ひとみ座・国立演芸場打<br>ち合わせ         | 於國立演芸場 |                                      |
| 15日   | 平成3年度国立演芸場使用申込み                 |        |                                      |
| 15日   | 床本大整理                           |        |                                      |



撮影 佐藤ゆり江氏

- |       |   |
|-------|---|
| 2月23日 | 第6回義太夫教室OB演奏会—第43期生卒業発表—朝10時半から夜8時まで25本の熱演がくりひろげられた。(10頁参照)                     |
| 3月1日  | 主催—義太夫教室OB会後援—義太夫協会   |
| 3月3日  | 於東京都勤労福祉会館ホール   |
| 3月12日 | 平成2年度東京都文化財保存事業費補助金の交付決定通知  |
| 3月14日 | *91都民芸術フェスティバル 第21回邦楽演奏会 女流が出演した。   |
| 3月15日 | 公演部会 芸術文化振興懇親のつどい*91  |
| 3月15日 | 於国立小劇場  |
| 3月15日 | 於国立小劇場  |
| 3月15日 | 人間国宝・竹本土佐廣の手形が浅草公会堂前「スターの広場」に。  |
| 3月15日 | 今年は旭輝子・池部良・春日野八千代・佐久間良子・花柳小菊・坂東三津五郎、夢路いとし・喜味こいし・芳村五郎治の各氏。昭和54年の第1回から計百五十二人になつた。 |
| 3月16日 | 公演部・國立演芸場打ち合わせ  |
| 3月16日 | 於國立演芸場  |
| 3月18日 | 義太夫教室第43期上級修了式  |
| 3月18日 | 於演舞場スペースアルファ  |
| 3月21日 | 義太夫協会会報第50号発行   |

# 義太夫教室 受講生募集中 !!

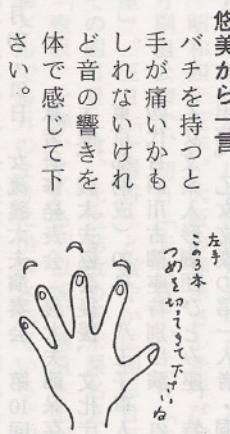
## 義太夫の一日体験教室

- \* 平成3年4月13日(土) 3時~5時 演舞場スペースアルファ
- \* 講師——竹本 朝重(義太夫協会副会長)
- \* 内容「絵本太功記 尼ヶ崎の段」
- \* 参加費——、五〇〇円



- \* 平成3年5月18日(土) 3時~5時 演舞場スペースアルファ
- \* 手ほどき——鶴澤 悠美 (平成2年度芸術選奨新人賞受賞)
- \* 参加費——、〇〇〇円

- \* 内容 演義「義太夫の特徴」「邦楽の構成」他  
講師陣は、田辺 秀雄・竹内 道敬他
- \* 実技 語り「絵本太功記」 竹本 朝重  
三味線実習 竹本 綾一  
三味線堂棟由来 竹本 弥乃太夫
- \* 参加費——、三〇〇〇円(テキスト含む)



- 大きな声を出すのはなかなか悪くないと思いました。
  - 素人でもやれば何とかなる!!
  - 年令に関係なく楽しめます。物語にふしをつけて語る楽しさを感じました。
  - 楽しかった、足のしびれさえなければ。
- 「昨年のアンケートから」
- 三味線は重労働であることがわかりました。
  - むずかしかったですが、三味線にさわって感激しました。
  - 弾いている人は簡単に見えるのに、実際とは大違いでした。
  - バチが角ばっていて、持っていて痛いのに参りました〜〜!

**義太夫教室(44期生)**  
実技と講義両面から迫る  
初心者向けの初級入門コース

\* 平成3年5月27日(月) ~ 7月22日(月)  
毎週月・金(週2回) 全16回  
\* 6時30分~8時40分

## 鶴澤悠美 芸術選奨新人賞

ともに、竹本研修の第四期生で、歌舞伎を支える大きな戦力になりつつあります。

### 「受賞者略歴」

竹本 泉太夫(たけもと いづみだゆう)

昭和25年12月1日生。

演劇活動をしていたが、昭和54年6月

立劇場「第四期竹本研修生」

昭和56年3月 第四期竹本研修修了

鶴澤 泰二郎(つるざわ やすじろう)

昭和32年5月17日生。

幼少の頃から洋楽の環境に育ち、洋楽の道

に進むつもりだったが、昭和54年6月 国

立劇場「第四期竹本研修生」

昭和56年3月 第四期竹本研修修了

### 第20回心身障害児のための特別公演

### 収支決算御報告

平成3年2月22日、平成2年度(第41回)芸術選奨文部大臣賞と同文部大臣新人賞の受賞者が発表されました。文部大臣賞には、日下武史氏ら15人、そして12人の新人賞受賞者の中に、女流三味線の鶴澤悠美(本名田中悠美子)が音楽部門で受賞という快挙。

悠美によると「古典は余りに奥深いので気が遠くなっていたところでした」とのこと。そして、アノ独特的のソプラノで「困ったナア、困ったナア」を連発していました。

竹本駒之助(義太夫協会副会長)と鶴澤重輝(義太夫節保存会副会長)両師匠の喜びはいかばかりかと思われますが、これを機に益々指導が厳しくなるかも知れません。

表彰式は3月19日、そして、郵便でこの会報がお手元に届く頃には、鶴澤悠美は、若杉弘指揮「東京都交響楽団アメリカ公演」に参加して、ニューヨークはカーネギーホールに太棹ソリスト・田中悠美子として出演したことでしょう。

### 竹本泉太夫・鶴澤泰二郎

#### 芸団協助成 新人奨励賞

平成2年度芸団協助成による新人奨励賞は竹本(歌舞伎義太夫)から竹本泉太夫・鶴澤泰二郎に授与されることになりました。

### 〈収入の部〉

会場募金箱	74,592円
当日入場料	44,400円
出演者扱切符代	139,800円
協会扱御寄付	23,000円

### 〔内訳〕

竹本弥乃太夫御一門様	100,000円
和田 博様	30,000円
坂本 朝 一様	20,000円
松尾 武 市様	20,000円
松前 重 義様	20,000円
神田外語大素八を聴く会様	15,000円
竹本綾之助会様	10,000円
中島 古 平様	10,000円
藤波 耕 六様	5,000円
収入合計	488,792円

### 〈支出の部〉

心身障害児のための寄付金	150,000円
会場費他諸掛	139,039円
旅費宿泊交通費	98,934円
通信費	70,699円
床世話・荷上げ他	18,500円
諸 雜 費	11,620円
支出合計	488,792円

差引残 0円

昨年、平成2年12月21日の「心身障害児のための特別公演・仮名手本忠臣蔵」の収支は左の通りでした。おかげさまで、NHK厚生文化事業団に15万円を託すことが出来ました。大きい会場に移ったためでしょうか、募金箱一日の募金額はこれまでの最高記録でした。皆様の御協力本当に有難うございました。尚、今回もプログラム・チラシ・ポスター等印刷一式は高野俊雄常任相談役の御寄付によるものですが、昭和50年第5回から、これで何と16年間も続けて頂いたことになります。改めて御礼申し上げます。

## 新入会員御紹介 (五十音順・敬称略)

## 住所(住居表示)等変更

△短信

□景山正隆監事 書きおろし  
景山正隆著 「愛すべき小屋」刊行

## ●舞台探訪記

「地方芸能文化史における舞台の研究」  
・飛驒から美濃へ

## ●村芝居と舞台の民俗誌

岐阜県の緊急調査 群馬県の緊急調査、  
小豆島と塩飽本島、南会津・首都圏の農  
村舞台・信州・三河・漁村の農村舞台、  
苗木藩領の村芝居、小原村万人講芝居と  
地芝居の記録

## ●現代地芝居の民族

## ●海と山の村芝居

冬樹社刊 4500円

□菊池明相談役が、一月から「逍遙協会」理

事長に就任しました。益々の御活躍を。

□床本・五行本(稽古本)若干お預けできる

ことになりました。詳細は事務局まで

□女流義太夫演奏会に助成金!

昨年、政府出資金五百億円、民間拠出金百  
億円をもって設立された芸術文化振興基金  
による、平成2年度の助成対象活動が決定し  
ました。本牧亭から国立演芸場へ移った当協  
会の「女流義太夫演奏会」に対し、三百三十  
五万円の助成が決まりました。これも、各位  
の御支援の賜です。本当に有難うございまし  
た。故豊澤仙廣師が、一番心配していた女流  
義太夫公演の赤字が、「これでかなり助かりま  
す。仙廣師の一周年忌に何よりの御報告ができ  
ました。」

女流義太夫は毎月二十一日  
平成3年度の女流義太夫演奏会の日程は、  
開演は六時半に繰り下げる  
△来年三月だけは二十日

来年3月以外はすべて21日と決まりました。  
3月公演だけは都合により20日となります。

また、今月から開演を30分繰り下げ、6時半  
開演ですので、職場から駆けつけて下さる方  
には少し余裕が出来ると存じます。開演前に  
は「みす内」として、若手の勉強の場(料金  
外)を設けました。みす内は、毎月とは限り  
ませんが、今後の女流義太夫界を背負ってい  
くべき若手の成長をお見守り頂きたく、四月  
からの新方式をよろしくお願ひ致します。

△寄贈

高野俊雄様 女流義太夫ボスター千部

「文楽」編集部様 (二色)印刷一式

竹本土佐子様 指スリ 多数

西川古柳様 宮川孝之写真集「八王子

車人形」ぎょうせい刊

## 編集後記

4月~12月新橋演舞場新装  
開場十周年記念というチラシ

シを見てびっくり。この十年、否この一、二  
年の間に、つまり仙廣師の逝去とあい前後し  
て義太夫界も取り巻く世界も、大きく変わっ  
たようです。義太夫という字が読めない、  
書けない人の方が多いかもしれない時代にど  
う対応するのか、難しい課題です。